

# 所信表明

令和6年度の大桑村一般会計並びに各特別会計予算及び公営企業会計の概要をお知らせします。

## 予算の概要

我が国の経済情勢は、新型コロナウイルス感染症による影響が減少しつつある中、ウクライナや中東における紛争による世界経済の混乱や物価高騰による影響を受け続けています。国は、経済見通しについて、緩やかな回復が期待されるが、物価上昇等の影響に注意が必要としています。

そのような中、政府は令和6年度地方財政計画で、地方税の増収を見込み、地方団体が行政サービスを安定的に提供しつつ、デジタル化や脱炭素化の推進などの重要課題に取り組めるよう地方交付税総額を前年度から3060億円増の18兆6671億円確保するとともに、臨時財政対策債の発行を前年度から5402億円抑制する

などしたうえで、通常収支分における一般財源総額を62兆7180億円計上しました。

村内の経済状況を見ますと、新型コロナウイルス感染症からの持ち直しがみられています。光熱費などの物価高騰の影響や人手不足など、厳しい状況が続いています。

村の財政状況は、令和4年度の決算では46億9038万円と、村政史上最高額となった令和3年度に比べ約10億円、大幅に減少しました。今後数年にわたり、村債の償還がピークを迎え、さらに財政の健全化を示す指標である実質公債費率も上昇するものと思われる。

令和6年度予算は、これらの状況を見据え、さらに少子高齢化、過疎化の進展に対処すべく、景気対策に配慮するとともに、若者の定住促進、子育て支援、産業振興



の充実、健康増進、教育の充実に意を用い、誰もが住み続けることのできるやさしい村づくりの推進を重点に編成しました。

一般会計は総額が36億200万円となり、前年度当初予算対比で5億6100万円の減額、率にして13・5%の減となります。

歳入では、村税は新型コロナウイルス感染症の影響が減りつつあるなか、物価高の影響を受け依然として厳しい景気状況が続いていることを鑑み、村民税は村内企業の動向と令和5年度の実績を考慮し増収を見込みましたが、固定資産税の減額により村税総額は前年度に比べ309万1千円の減収見込みとし、5億8708万7千円を計上しました。

地方交付税は令和5年度の歳入実績等を考慮したうえで、

18億7543万2千円、前年度比1・4%の増額とし、臨時財政対策債400万円と合わせた総額は18億7943万2千円で、1741万3千円の増額を見込みました。国庫補助金は土木費で橋梁長寿命化修繕と橋梁定期点検を実施、総務費で戸籍システム改修事業を計上し、前年度比32・8%増の1億1272万6千円となりました。

村債は、木曾寮建設負担分が皆減となり、国庫補助事業の補助裏財源などとして過疎対策事業債、延沢改修事業など緊急自然災害防止対策事業債、宮の沢浚渫事業へ緊急浚渫事業債を充て、前年度比45・0%減の2億6590万円を計上しました。



▲完成した木曾寮



コロナウイルス感染症やその他の感染症への感染防止対策を行いながら社会福祉協議会、村内のNPO団体などと連携し、介護予防教室、健康教室、ふれあいいきいきサロンやコミュニティカフェ、配食サービス、住民が主体となった支え合い活動など生活支援サービスの充実を図ります。

地域活動支援センターくわっこ工房では、障がいを持つ皆さんの社会参加の促進と相談・支援体制の充実を図り、地域と一体となった活動や余暇活動支援事業を継続します。また、身体の不自由な人や寝たきりとなった人を対象に福祉有償移送サービスの利用補助を継続し、さらに移動が困難な高齢者や障がい者の通院・通所・買い物など移動に対する支援を図るため、福祉タクシー券の発行や障害者施設通所交通費の補助を拡充します。

## 美しく安全なむらづくり

地球温暖化に起因するとされる異常気象は、以前では想定できない被害をもたらしています。また、能登半島地震のような規模の大きな地震発生時には当村においても

被災が想定されます。

相次ぐ自然災害の防災・減災対策が重要視される中、利水ダムの事前放流の定着や橋梁・トンネルの長寿命化を図る点検・改修などそれぞれの関係者が一体となった防災対策が取られています。更に国・県との連携を強化していきます。

国の直轄砂防事業は、下在砂防堰堤工群、猿沢砂防堰堤緊急対策事業、浦川第2砂防堰堤改築事業、太田第1砂防堰堤事業、矢垂沢砂防堰堤事業を継続します。県の事業としては、殿下落地区急傾斜地崩壊対策の調査を実施します。村事業では、延沢整備工事を継続します。

地域景観整備では、三色桃によ



▲ 現在工事中の延沢

る景観整備を継続します。住民の皆さんが参画する地域の景観整備事業など自主的な活動についても支援を継続してまいりますので、積極的な取り組みをお願いするところで。

生活環境の整備では、リサイクル事業の更なる推進と、ごみの減量化を進めるため資源回収事業奨励金と生ごみ処理機の購入助成を継続します。このほかに、自然エネルギーの活用促進の太陽光発電設置補助金は補助要件を見直しするとともに、野良猫等の繁殖を抑制するための不妊去勢手術補助金、合併処理浄化槽の保守点検への助成金及び設置整備に対する補助金を継続します。

## 快適で住みやすいむらづくり

村道関係では、役場旧庁舎取壊しに伴う村道長野線の改良工事に着手します。

また、橋梁長寿命化修繕計画に基づき野尻向橋及び口宮の沢橋の橋梁修繕工事を行うとともに神沢1号橋の詳細設計を実施するほか、村内32の橋梁及びトンネルの点検を行います。



▲ 改良される村道長野線

県事業の木曾川右岸道路整備事業は、和村橋整備工事を継続し早期開通を目指します。また、阿寺地区から南木曾町戸場<sup>とどろば</sup>までの工事を継続するとともに、県代行事業で大桑橋から国道19号までの取付道路を整備します。

国道19号では、関山青木沢橋他2橋の橋梁修繕事業を行います。村内の公共交通については、木曾病院線及び坂下診療所線、村内循環線のダイヤと乗合タクシーを充実し、村内の移動や通院など交通手段の確保と利用者の利便性を向上させます。

地方創生への取り組みを推進し、Iターン・Uターンなど若者の村内定着と移住・定住化を図るため、地域おこし協力隊による空き家紹



▲建設が進む和村橋

介・活用事業に引続き取組むとともに、住宅の新築・増改築及び空き家対策に伴う補助事業は継続して実施します。

また、都市部から村内へ移住する人に対し移住支援金を交付する移住支援事業及び新婚世帯が住宅を確保する際の経費助成事業は拡充します。

国土調査地籍調査事業については、殿24区の現地調査を行います。

### 活力あふれるむらづくり

遊休農地、耕作放棄地など農地の総合管理を図るため、農地所有者と関係機関が連携し話し合いのうえ、農地の将来像を可視化する「地域計画」を策定します。また、農業委員による農地利用最適化を

推進し中山間地域の特色ある生産活動を振興します。

森林整備事業は国・県の制度を十分活用して進めるとともに、森林環境譲与税を活用した事業を進めます。このうち、中山間地区では、環境林整備事業として鳥獣被害や枯損木等の状況を考慮した全体計画を策定し、遊歩道の整備を実施します。さらに、ライフライン沿いの危険木・有害鳥獣誘引木の個人伐採費用に対する補助事業は、内容を見直し事業規模を拡大します。

また、森林経営管理制度業務は、木曽広域連合森林整備推進室と連携し、地区説明会の開催や意向調査に引続き取組むとともに、村有林管理では、計画的に整備を実施



▲木曽川右岸から望む中山

するため森林整備計画の策定に着手します。

木育推進事業として、小中学生の自然体験活動支援を目的とした村内のキャンプ場利用料への助成事業は継続します。

林道では、野尻与川線二反田2号橋橋梁修繕詳細設計業務に着手します。

有害鳥獣被害に対応するため、鳥獣被害対策実施隊との連携を継続し、有害鳥獣の捕獲、駆除、追払に努めます。また減少する有害鳥獣駆除従事者確保のため狩猟免許取得者への補助などを継続します。

阿寺溪谷の車両交通規制は、事業を一括委託し継続して実施します。

木曽ふれあいの郷・あてら荘はコロナ禍の影響を受け厳しい状況が続いていますが、持ち直しの兆候も見えつつあります。指定管理者と連携を進めつつ施設を有効活用し、コロナ禍以前の水準まで利用者が復調することを期待するものです。

のぞきど森林公園は林道工事による2年間の休園が終了し、新たに指定管理者による営業がスタート



▲指定管理になるのぞきど森林公園

トします。指定管理者と連携を取りながら来場者の増加を期待したいと考えます。

森の里の秋まつりは、昨年引続き、村民が楽しむイベントとして継続します。

地域おこし協力隊は、それぞれ活動の最終年度を迎えますが、地域に密着した協力活動の拡大に期待するものです。また、新たに民間連携型地域おこし協力隊を募集します。

### 一人ひとりが学びつづけられるむらづくり

小・中学校では少人数の学年が続くとともに、様々な事情を持った支援が必要な児童生徒が在籍します。引き続き教育相談支援員、



▲遺跡発掘の様子

心の相談員を配置し対応を充実します。また、村費職員を小学校へ1名、中学校へ3名配置するとともに、外国語教育を充実するため、小・中学校へそれぞれ1名ALTを配置します。学校給食については副食の食材費を全額補助し、保護者の負担軽減を図ります。また、「放課後子ども教室」は長期の休みを含め通年で継続し、放課後の子どもの安全な場所を確保します。大学等を卒業した後、村内へUターンし奨学金の返済を行っている人への補助は引続き実施します。文化財関係では、定勝寺耐震補強工事と池口寺薬師堂災害復旧工事への助成を行うとともに、弓矢飼育所遺跡の発掘調査を進めます。生涯学習では、村民の皆さんが地域に愛着を持ち自分らしく、いきいき過ごせる村を目指し、社会

教育・生涯学習講座関係の経費を計上しました。

公民館関係では分館運営及び営繕交付金を計上し、地域の個性を活かした活動の推進と世代間交流の促進を図るとともに、分館のエアコン設置を順次進めます。

図書館は、蔵書の更なる充実を引続き図るとともに、さらに村民に親しまれる施設となるようなイベントも継続して取組めます。

体育施設関係では、村民体育館周辺の再整備を進め利用者の利便性の向上を目指すとともに公園管理の充実を図ります。

### 連携と協働で築く 自立のむらづくり

国が推進するDXへの取組み、特にガバメントクラウドへの移行については各所の動向を見極めつつ、行政サービスの向上を最優先に取組めます。

リニューアルした村ホームページ及び統合型GISを活用した村民への情報提供等を充実させるとともに、木曾広域ケーブルテレビ光回線を活用した防災情報の提供についても村民への周知を図ります。

姉妹都市シエルビービル市との国際交流事業では、令和5年度の入入れにより事業の再開が図れたため、6年度は村民のシエルビービル訪問を実施します。



▲イリノイ州シエルビービル市

また、北名古屋市をはじめとする木曾川上下流、都市と農山村との交流など様々な交流の形態について検討を重ね、更なる交流を目指してまいります。

### 特別会計、公営企業会計

国民健康保険事業会計と後期高齢者医療事業会計の特別会計は、それぞれ通常の給付関係経費を計上し、総額3億8803万2千円

で、前年度比7・6%の減額となりました。

公営企業会計では、簡易水道事業会計は野尻高区配水池設備更新に係る費用のほか基本計画策定経費を計上しました。

農業集落排水事業会計及び公共下水道事業会計は、通常の施設維持管理経費とマンホールポンプ更新経費、木曾川右岸道路整備に伴う弓矢地区下水道管布設に係る経費のほか野尻浄化センター耐水化計画策定経費を計上しました。

以上が令和6年度予算の概要です。

新型コロナウイルス感染症の拡大傾向は収まりつつある兆候も感じられますが、コロナ禍にもたらされた厳しい状況の影響は残っています。

感染対策と生活の支援の取組みを最優先にしつつ、村民の皆さんと共に考え、将来にわたって安心して、いきいきと暮らせる村づくりのため、全力で着実な行政運営に努めてまいります。

村民各位のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げ、所信表明といたします。